

科目名	解剖生理学 I	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
			<input checked="" type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Human Anatomy and Physiology I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ナンバリング	HB111G	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
ふりがな	おおにし てつお	授業形態・修得単位	1単位
担当教員名	大西 哲生	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	人体諸器官の解剖学的特徴（構造）および生理学的特徴（機能）について理解する。		
授業概要	本講義では人体を各器官系統に分け、それらを構成する各器官の形態と構造およびその機能について解説する。		
到達目標	①人体および各種器官系の構造上の特徴を理解し、各部の名称を覚えるとともに説明できる。 ②人体の生理機能に関する知識を習得するとともに、生体の恒常性の維持の仕組みを理解したうえで説明ができる。		
授業時間外の学習	講義の前に、資料（必要に応じてポータルサイト経由で事前配布する）に目を通し、テキストの関連ページを通読し、よく理解できない事項を整理してから臨むこと。後期以降開講される生化学・病態生理学・臨床栄養学などもこの科目の正確な理解がないと困難であることから、常に復習（週に最低60分程度）を心がけ、分からない部分は図書館等で調べたり、教員に質問するなど自発的な努力が求められる。		
履修条件	基礎教育科目「生物学」「化学」をあわせて受講し（高校で関連内容をしっかり学んで身につけてきた方については必ずしも受講は不要）、それらの内容を相互に参照することで理解を深めてほしい。		
授業計画			
第1回	テーマ：「解剖生理学」の学習法に関するオリエンテーション、ホメオスタシスと人体の構成について		
第2回	テーマ：細胞の構造と細胞小器官		
第3回	テーマ：細胞分裂と組織構築		
第4回	テーマ：ミニテスト①、消化器系Ⅰ～消化管の構造と機能		
第5回	テーマ：消化器系Ⅱ～肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能、咀嚼と嚥下～		
第6回	テーマ：消化器系Ⅲ～消化管ホルモン～		
第7回	テーマ：消化器系Ⅳ～消化と吸収のメカニズム～		
第8回	テーマ：ミニテスト②、血液、造血器、リンパ系Ⅰ～血液と血球の分化、成熟～		
第9回	テーマ：血液、造血器、リンパ系Ⅱ～赤血球、白血球、血小板、血漿タンパク質、血液型～		
第10回	テーマ：免疫系Ⅰ～免疫の意味と生体防御～		
第11回	テーマ：免疫系Ⅱ～自然免疫～		
第12回	テーマ：免疫系Ⅲ～獲得免疫とアレルギー～		
第13回	テーマ：ミニテスト③、運動器系Ⅰ～骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能～		
第14回	テーマ：運動器系Ⅱ～骨の成長とリモデリング～		
第15回	テーマ：運動器系Ⅲ～筋肉の構造と機能～		
第16回	定期試験		
テキスト	南江堂 健康・栄養科学シリーズ「解剖生理学」（上嶋・濱田編）（「解剖生理学 II」と共通）		
参考文献・資料	適宜紹介する		
成績評価の方法	出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験の成績50点、ミニテストの成績30点、取り組む姿勢20点で評価します		
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	平日随時		

受講生に 望むこと・受講 のルール	再試は行わない方針です。つまり60点未満となると即留年が濃厚となりますので、誠実に学習に取り組むこと。疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。疑問点を放置しないことは約束してください。
-------------------------	---